

その他の業務：危機管理室

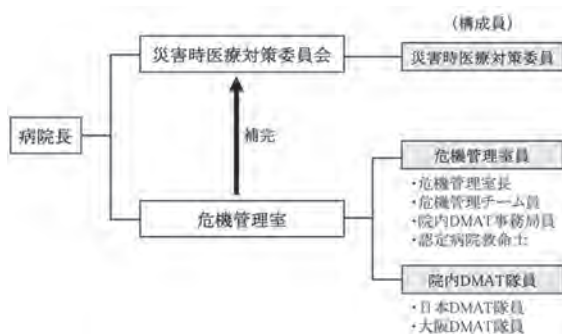
＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
室長兼救命診療科部長	成田 麻衣子
参事兼診療支援局次長 兼放射線部門長兼放射線副センター長 兼放射線治療副センター長	中前 光弘
参事兼総務課参事	木ノ元 直子
主査兼救命ICU副看護師長 兼感染症センター	弥園 英治
主査兼医療マネジメント課診療情報管理係長 兼算定係主査	田中 貴士
救命初療/手術室	西村 直子
薬剤部門	中川 貴弘
総務課総務係	高川 一馬
他スタッフ	1名

＜特色と概要＞

当院は、地域の中核病院として、地震や津波、台風、航空機事故、テロ(CBRNE等)、サイバー攻撃などあらゆる危機(オールハザード)に対して、予防的な対応も含め、迅速かつ的確な対応をとり、院内外の機関と連携しながら業務(=診療)継続を行う必要がある。そのため、病院だけでなく地域全体の減災対策を行う拠点として、危機管理室が設置された。

2024年度からは、院内災害対策の組織体制(図1)を明確にし、新たに2名のスタッフを加え、「院内DMAT事務局」を設置し、院内DMAT隊員を組織化することで、院内の災害対応の強化を図っている。



(図1)院内災害対策の組織図

1. 院内外のBCPおよび各種マニュアルの整備

当院は前述したように、どのような危機が発生しても、地域の拠点病院として、業務(=診療)継続を行う必要がある。そのために、危機管理室では、全ての危機に対応できるよう、オールハザード対応の「医療情報システム部門事業継続計画(BCP)」の作成や更新、対応人員の育成と管理、マニュアルなどの整備、院内外における災害教育・訓練企画・院内周知などを行っている。

2. 他機関・他施設との連携体制の構築

当院は、危機発生時に迅速かつ的確な応急対応が実施

できるよう、平素から行政や関連機関等と連携を密にし、協力体制の強化に努める必要がある。そのため、危機管理室は、泉佐野保健所管内健康危機管理関係機関連絡会議に参画し、泉州二次医療圏における危機事態に対しての対応策や連絡体制の検討を行い、有事の際には迅速的確な情報共有を行えるように多機関・多施設連携の強化を図っている。また、関西国際空港緊急計画やKIX-JCMG (Joint Crisis Management Group:関西国際空港総合対策本部)への参画や、消防・警察・海上保安庁などへの講演会の実施や合同訓練の企画立案を通して、有事の際の医療連携体制強化を図っている。

3. (有事の際の)院内対策本部のサポート

当院は、危機の規模や被害等が拡大し病院全体の対応が必要な場合に、対策本部等の組織体制に迅速に移行するなど、状況に応じた対応を行う必要がある。危機管理室は、そのような際に、院内外の情報収集・連絡体制の確保などの院内対策本部のサポートや代表窓口を担い、加えて有事の際の対応記録の保管を行っている。この対応記録から各々の活動評価を行いマニュアル・BCPなどの修正を行い次の有事に備えることとしている。

＜実績＞

2024年度は、「危機管理計画」を作成した。この計画は、前年度作成した「危機管理指針」に基づいたもので、患者・職員・地域の人々の生命、身体及び病院の財産を保護するため、危機管理の組織体制をはじめ、事前対策、応急対策、事後対策等について定めたものである。これにより、危機全般に対する責任体制を明らかにした。

また、医療安全対策室と連携し、大阪府泉佐野警察署の協力のもと、4月19日に「不審者対応訓練」を実施し、医療安全マニュアルの修正や不審者対応フロー等を作成し、院内の安全体制の強化に貢献した。

2023年度、サイバー攻撃などによるシステム障害発生時の危機管理体制の強化のために、医療情報システム管理者ワーキンググループを立ち上げ、サイバーセキュリティに関する院内教育や訓練、システム障害時の連絡体制の構築、および、電子カルテ使用不可時でも診療継続ができるような紙運用マニュアル作成などを行ったが、2024年度は、実案を通じてその検証を行った。また、その検証結果をもとに、対応フローやマニュアル/アクションカード等などの修正作業を行った。加えて、BCPを完成させた。

前述のように、新たに、院内DMAT事務局を設置し、院内DMAT隊員の月1回の活動日を設け、訓練の報告会やDMAT勉強会も実施した。これにより、DMAT隊員が院内の災害対策により積極的に関わることができ、院内災害対応能力の向上に寄与するとともに、DMAT隊員自身の知識向上や技能維持にも繋げることができた。当院のDMATが参加した訓練等は表1に示す。また、大阪府が被災想定の新畿地方DMATブロック訓練が11月8・9日に開催されたが、その企画段階から携わり、大阪府庁に設置される「DMAT調整本部」における訓練に、危機管理室長が「大阪府DMAT調整本部長」に任命され、訓練に参加するとともに、院内でも机上訓練を実施した。

また、危機発生時でも地域住民の皆様に医療の提供が継続できるよう、より一層の多機関連携の強化と地域全体の減災対策に貢献できるように努めていく。

表1 2024年度に当院DMATが参加した主な訓練やイベント

5月10日	令和6年度大阪府災害時病院対応・病院籠城シミュレーション(DHCoS)研修
5月23日	関西空港航空機事故情報伝達訓練
6月1日	第3回いずみさのこども未来応援フェスタ
6月12日	令和6年度泉州地域DHCoS研修会
7月25日	関西空港航空機事故消火救難部分訓練
8月22日	関西空港航空機事故消火救難図上訓練
9月28日	政府訓練大規模地震時医療活動訓練
10月24日	関西空港航空機事故消火救難総合訓練
11月5日	泉州地区関係機関合同NBCテロ対処訓練
11月8・9日	近畿地方DMATブロック訓練
12月20日	院内防火防災訓練
1月17日	大阪府地震・津波災害対策訓練
2月28日	泉州圏域多機関合同爆発事案対応図上訓練

さらに、11月5日泉州地区関係機関合同NBCテロ対処訓練、2月28日泉州圏域多機関合同爆発事案対応図上訓練を実施したが、危機管理室は同訓練の企画・運営に携わり、他機関・他施設との連携体制の強化を図った。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

BCPに関しては、当院は、まだ、地震に対するものしか備えておらず、全ての危機(オールハザード)に対しての備えができていない状況である。来年度は、地震以外のあらゆる危機に対してのオールハザード編のBCPを完成させ、さらにその実現に向けた院内体制の構築を行う。

また、BCPは完成したものの、対策本部マニュアルやその訓練は実施できておらず、来年度は、対策本部マニュアルの完成および医療情報システム部門BCP訓練を実施する予定である。

院内DMAT事務局としては、引き続き、院内DMATの教育・体制整備を行うとともに、DMAT運用マニュアルの改定を行い、DMATだけではなく、災害支援ナースやJRAT(Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)などの他の災害派遣チームを含めた運用マニュアルを完成させる。